

**取組2 治水・治山対策**

取組の評価

**3.4 概ね順調**

<取組2の基本方針>  
1 地域防災力の強化  
2 総合的な治水対策

3 災害危険区域の周知徹底  
4 土砂災害防止の促進

【取組の目的】 市民の防災意識の高揚を図るとともに、治水・土砂災害対策を計画的に推進し、災害に対する備えを万全にします。

『取組』に係る社会の動向・本市の現状（主な取組）

- 【社会の動向】 ◎ 近年、気候変動等に伴うゲリラ豪雨や集中豪雨による水害被害や土砂災害が全国各地で多発しており、緊急性やニーズ、整備計画等を踏まえた施設整備などのハード対策と、洪水や土砂災害の危険性を周知し、市民の災害意識・避難意識を高めるソフト対策の両面の推進が求められている。  
◎ 平成25年4月には浜松市天竜区で実際に大規模な地滑りが発生している。
- 【本市の現状（主な取組）】 ◎ 「袋井市中部豪雨災害対策アクションプラン」は、蟹田川流域と沖之川流域では概ね当初目標を達成したが、小笠沢川流域については、対策の見直しにより平成28年度まで期間を延長している。  
◎ 土砂災害ハザードマップについては、県の土砂災害警戒区域指定を受けた202箇所のうち、平成21～24年度までに69箇所を作成。また、平成25年度には、89箇所を追加し、合計158箇所を作成した。

『取組指標』の分析と評価結果

番号	指標名	項目	H24	H25
1	治水対策のための雨水貯留量【立方メートル】	目標値	63,590	66,600
		実績値	45,560	58,360
		達成率 伸び率	71.6 7.4	87.6 28.0
		評価	2	2
2	浸水常襲地区の床上浸水被害想定家屋数【戸】	目標値	21	21
		実績値	21	7
		達成率 伸び率	100.0 0.0	300.0 66.6
		評価	4	4
3	土砂災害警戒区域の指定箇所の割合【箇所】	目標値	65.1	77.7
		実績値	80.1	80.1
		達成率 伸び率	123.0 68.2	103.0 0.0
		評価	4	4
		目標値		
		実績値		
		達成率 伸び率		
		評価		
		目標値		
		実績値		
		達成率 伸び率		
		評価		
評価結果の平均値 (A)			<b>3.3</b>	

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果

評価項目	H25	備考欄
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	4	◎ 治水安全度の向上や土地利用の適正化に向けて長期的に取り組む「袋井市河川等整備計画」（10箇年計画）と床上浸水被害の解消に向けて短期的に取り組む「袋井市中部豪雨災害対策アクションプラン」（蟹田川・沖之川・小笠沢川流域）により、多面性を持って総合的に事業が計画され、安全・安心なまちづくりが行われている。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	◎ 平成20年度から5カ年により取り組んできた「袋井市中部豪雨災害対策アクションプラン」により一定の効果が表れている。しかしながら、近年多発している集中豪雨やゲリラ豪雨などにより、水害等が発生しやすい状況にあることから、今後も局所的な改修事業や、雨水流出抑制などによる被害軽減対策等も並行して行っていくことが求められる。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	◎ 近年多発しているゲリラ豪雨や、市街化による流域の保水・遊水機能の低下により、水害発生リスクが高まっている状況であることから、浸水常襲地区における家屋浸水被害の早期解消とともに、流域全体の治水安全度を向上させるため、河川改修や雨水流出抑制などの対策を早急に進めていく。
評価結果の平均値 (C)		<b>3.7</b>

『主要事業』に係る事業評価表の評価結果

番号	主要事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
1	防災機器等維持管理事業	4	3	3
2	水防運営事業	4	4	4
3	袋井駅南地区調整地整備事業	3	3	4
4	校庭貯留施設整備事業	3	3	3
5	沖之川流域水田貯留整備事業	3	3	3
6	雨水貯留タンク設置事業	4	4	3
7	治水対策緊急事業	3	3	3
8	沖之川流域耐水壁等設置事業	3	3	3
9	準用河川中沢川改修事業	3	3	3
10	松橋川改修事業	3	3	4
11	木原2号排水路改修事業	3	3	3
12	河川・排水路維持管理事業	3	3	3
13	災害復旧事業	3	3	3
14	土砂災害防止事業	3	3	4
15	急傾斜地崩壊対策事業	3	3	3
評価結果の平均値 (B)		<b>3.2</b>	<b>3.2</b>	<b>3.1</b>
			<b>3.3</b>	

《評価基準》  
4：達成率 ≥ 100%・前年比伸び率 ≥ 0%    3：達成率 ≥ 100%・前年比伸び率 < 0%    ◎ 大谷川逆流防止水門の完成により、沖之川流域の床上浸水被害想定家屋数が大きく減少した。  
2：達成率 < 100%・前年比伸び率 ≥ 0%    1：達成率 < 100%・前年比伸び率 < 0%    ◎ 雨水貯留施設の貯留量については、県が事業主体の久野城址南遊水池の整備が遅れている。

『取組』の総合評価と今後の展開方向

取組の評価		各評価結果の平均値	取組指標の評価結果 (A)	有効性等の評価結果 (C)	主要事業の評価結果 (B)
<b>3.4</b>	<b>概ね順調</b>				

《評価基準》  
4～3.6：順調    3.5～3：概ね順調  
2.9～2：一部に改善を要する    1.9～1：全体的に改善を要する

番号	取組の基本方針	H24	H25	今後の展開方向
1	地域防災力の強化	→	→	消防（水防）団や自主防災隊などとの連携強化により、引き続き地域防災力を高めるとともに、被害軽減に大きくつながる災害の発生に関する情報を住民等に迅速かつ的確に伝達する方法の確立を図っていく。
2	総合的な治水対策	→	→	袋井市駅南地区については、今後の土地利用の動向を踏まえ、すでに都市計画決定されている都市型排水ポンプの整備について検討する。
3	災害危険区域の周知徹底	→	→	引き続き、土砂災害ハザードマップ等を有効に利用し、行政側から危険地域を指定周知していくことで、平常時から市民の災害への意識高揚を図っていく。
4	土砂災害防止の促進	→	→	市民にあらかじめ危険箇所を知らせるハザードマップの作成にあたっては、県による警戒区域の指定を受けることが必要であることから、県との連携をより一層高め、危険区域・警戒区域の指定等に取り組んでいく必要がある。
評価結果の平均値 (B)				<b>3.2</b>

《展開方向》 拡充（順調） → 拡充（改善必要） → 継続推進 → 縮小